

<概要>

日本の原子力発電所について、1969年度から2004年度までの時間稼働率の年次推移を炉型別にまとめた。

<更新年月>

2006年08月

（本データは原則として更新対象外とします。）

<本文>

日本の原子力発電所の1969年度から2004年度までの炉型別時間稼働率を表1に示す。また、炉型別の設備容量（認可出力）と時間稼働率の年次推移を図1に示す。

1966年に商業用原子力発電所が運転を開始して以来、時間稼働率は、1975年前後に初期トラブルや応力腐食割れ等のために総合平均で約50%にまで低下した時期を除き、1983年度に各炉型とも70%台に到達、1995年度には総合平均で80%台を達成し、以後、2001年度まで80%台の高水準で推移した。しかし、2002年のBWR原子力発電所の不正問題に起因する点検等のため、定期検査期間が長期化し、2002年度、2003年度の時間稼働率は大幅に低下した。特に、BWRの時間稼働率は2003年度、40%以下まで低下し、総合平均でも60%以下になった。2004年度の時間稼働率は定期検査が終了したプラントの運転再開により、総合で70%近くまで回復した。

わが国最初の電気事業用原子力発電所である日本原子力発電（株）東海発電所（GCR 1基、16.6万kW、1966年営業運転開始）は、1997年度末に運転を停止、現在、廃止措置中である。

なお、時間稼働率の定義は次のとおりである。

- ・ ユニットの時間稼働率（%）＝（発電時間／暦時間）×100
- ・ 平均時間稼働率（%）＝（認可出力×発電時間の合計）／（認可出力×暦時間の合計）×100
（平均時間稼働率とは出力案分をしたものである）

<関連タイトル>

[日本の原子力発電所の現状（2005年）（02-05-01-08）](#)

[日本の原子力発電所の分布地図（2005年）（02-05-01-09）](#)

<参考文献>

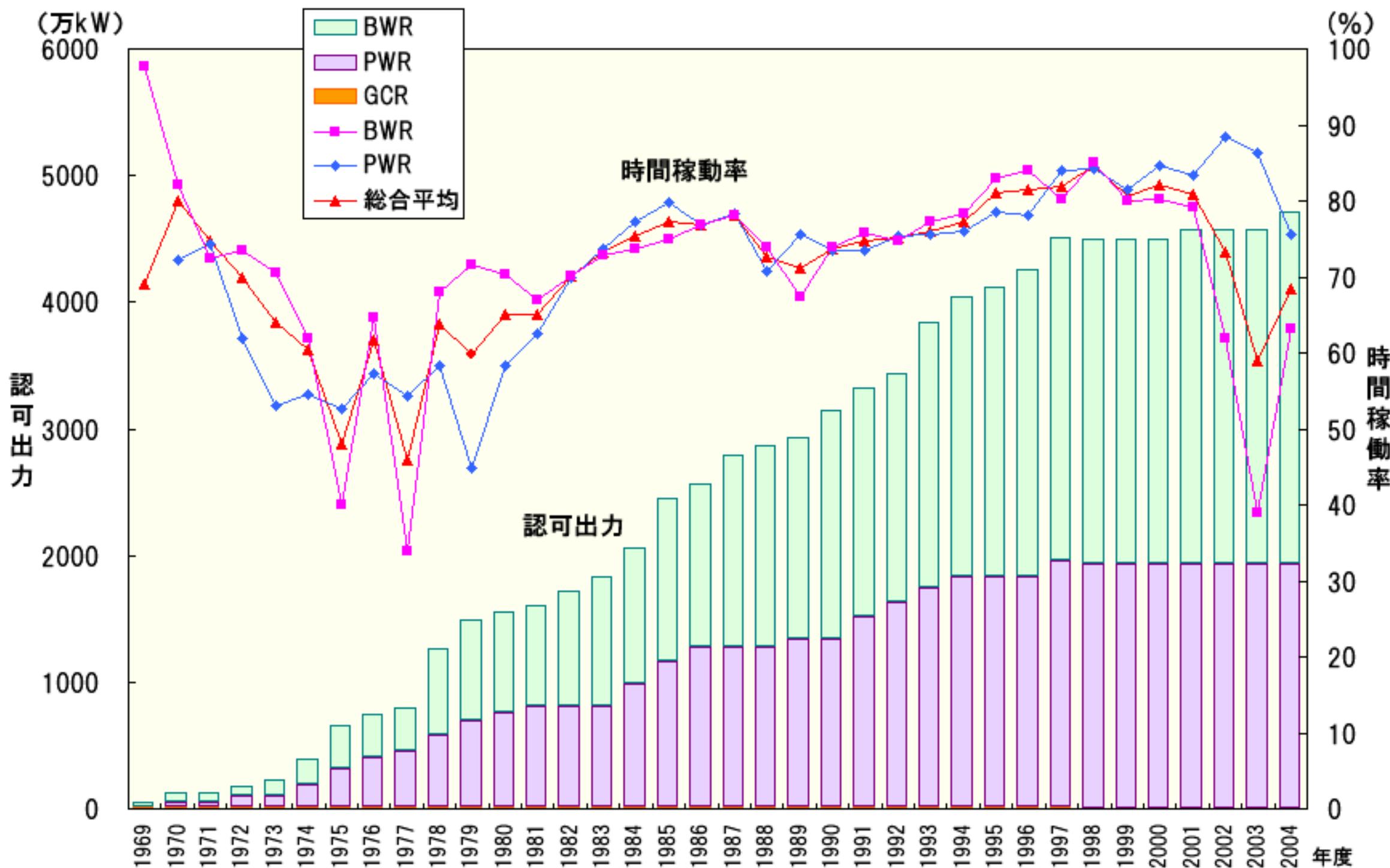
(1) (独)原子力安全基盤機構安全情報部（編）：原子力施設運転管理年報 平成17年版（2005年9月）

表1 日本の原子力発電所の時間稼働率の推移

(単位:%)

炉別	BWR	PWR	GCR	総合平均
1969	97.7	—	66.3	69.1
1970	82.2	72.3	80.3	79.9
1971	72.4	74.3	86.8	74.7
1972	73.4	62.0	85.5	70.0
1973	70.6	53.0	88.2	64.1
1974	62.0	54.6	85.3	60.5
1975	39.9	52.6	87.8	48.0
1976	64.7	57.3	87.5	61.7
1977	33.8	54.3	83.7	45.9
1978	67.9	58.3	86.6	63.8
1979	71.6	44.8	77.5	59.8
1980	70.3	58.3	82.1	65.0
1981	67.0	62.5	93.5	65.1
1982	70.2	69.9	83.3	70.2
1983	72.8	73.6	83.3	73.2
1984	73.7	77.2	77.6	75.3
1985	75.0	79.7	77.3	77.2
1986	76.9	76.9	77.9	76.9
1987	78.2	78.3	65.9	78.2
1988	74.0	70.8	70.2	72.6
1989	67.4	75.6	64.5	71.1
1990	73.8	73.4	80.6	73.6
1991	75.8	73.5	75.0	74.8
1992	74.8	75.3	90.8	75.1
1993	77.3	75.5	0.0	76.1
1994	78.3	75.9	81.3	77.2
1995	82.9	78.6	72.9	81.0
1996	83.9	78.2	85.1	81.4
1997	80.2	83.9	99.9	81.8
1998	85.0	84.3	—	84.7
1999	79.9	81.5	—	80.6
2000	80.3	84.6	—	82.1
2001	79.1	83.4	—	80.9
2002	61.9	88.5	—	73.2
2003	38.9	86.4	—	59.0
2004	63.2	75.5	—	68.4
累計	73.1	76.9	77.5	74.8

[出典](独)原子力安全基盤機構安全情報部(編):原子力施設運転管理年報
平成17年版(2005年9月)、p.44



下記の出典をもとに作成した

図1 日本の原子力発電所の認可出力と時間稼働率の推移

[出典](独)原子力安全基盤機構安全情報部(編):原子力施設運転管理年報 平成17年版(2005年9月)、p.22、p.44